

令和5年度6月補正予算の編成方針について

令和5年5月1日から、第23代高槻市長として、引き続き、中核市高槻の市政を担うこととなりました。

私は、市長就任以降、3期12年間にわたり、子ども医療費助成の対象拡大や小中学校全学年での35人学級編制、中学校における給食の開始とその無償化など、他市に先駆け、子育て・教育施策を大胆に拡充するとともに、府内でも高水準にある健康寿命の更なる延伸に向け、がん検診の無料化や介護予防活動の充実等の施策に積極的に取り組み、誰もが健康でいきいきと暮らすことができる、幸せを実感できるまちづくりを進めてきました。

さらに、大阪医科薬科大学への三次救急機能の移転により、持続可能な救急医療体制を確保するとともに、安満遺跡公園や高槻城公園芸術文化劇場の整備、関西将棋会館の誘致など、本市の輝かしい未来を見据えた新たなまちづくりにも取り組み、着実に実現してきたところです。

また、将来世代に負担を先送りすることなく、健全財政を堅持しながら市民サービスの充実に取り組むため、『みらいのための経営革新』に向けた改革方針のもと、新たな財源の創出と経費の縮減に努めながら、縮小均衡に留まらない未来志向の改革を着実に推進してまいりました。

一方で、大阪府北部地震や新型コロナウイルス感染症の感染拡大など、市民生活の安全・安心を脅かす事態にも、迅速かつきめ細かな対応を行ってまいりました。現在も、物価高騰が市民生活や地域経済に大きな影響を及ぼしており、引き続き、市民生活の支援・市内経済の活性化に向けた施策を強力に推進する必要があります。

本市の財政状況については、昭和58年度以降、連続して収支黒字を達成するなど、健全財政を維持しているものの、今後は生産年齢人口の減少による市税収入の減少に加え、高齢化の進行等に伴う社会保障経費や公共施設の老朽化等への対応に要する経費が増加していく見通しですが、このような状況下においても、全ての市民が安全に安心して暮らし、将来にわたって本市が発展し続けることができるよう、未来に向けた投資を積極的に行う必要があります。

私は、将来にわたり全ての高槻市民が幸せを実感できるまちを目指すとともに、「大阪の高槻」から「日本の高槻」へと本市を更に飛躍させるべく、「みらい創生」をキーワードに、全身全霊を傾け、4期目の市政運営に取り組む決意です。

令和5年度予算は骨格予算として当初予算に計上済みですが、新規施策等を盛り込む6月補正予算の編成に当たっての基本方針を下記のとおり示します。

記

6月補正予算については、市民生活や事業活動を守るための施策に取り組むことを最優先とするとともに、子育て・教育のトップランナー都市として次代を担う子どもたちへの投資、安全・安心のまちづくり、健康・医療・福祉の充実、にぎわいの創出や質の高い都市機能の整備など、本市の未来の発展につながる事業について予算編成を行うこととする。

なお、『高槻市みらいのための経営革新』に向けた改革方針を踏まえ、最小の人員・財源で最大の効果が得られるよう、創意工夫を重ねた予算要求とすること。

以上